令和6年度 第1回松戸市地域自立支援協議会 議事録

日時：令和6年8月1日（木） 午後2時～午後4時

会場：松戸市役所新館7階大会議室

1 委嘱状交付

事務局

それでは定刻になりましたので、令和6年度 第1回松戸市地域自立支援協議会を開催いたします。まず初めに委嘱状の交付式を執り行います。福祉長寿部長の松本が委員の皆様の前で伺いまして、委嘱状を交付いたします。そのまま自席にてお待ちください。なお、本日欠席された委員につきましては、別途郵送にて委嘱状を送付することを申し添えます。

(各委員に委嘱状交付)

2 部長挨拶

事務局

それでは会に先立ちまして、福祉長寿部長の松本よりご挨拶申し上げます。

松本部長

皆様、改めまして、こんにちは。松戸市の福祉長寿部の松本でございます。連日、暑い日が続いておりますけれども、本日ご参加いただきまして、誠にありがとうございます。また、日ごろより本市の福祉行政、障害福祉行政にご支援、ご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。

ただいま委嘱状を交付させていただきましたけれども、令和8年7月31日までの任期は2年間となっております。本日より新たに着任される委員の方も加えまして、新体制の2年間のスタートということになりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本協議会につきましては、障害者総合支援法におきまして、関係機関等が双方の連絡を図ることにより、地域における障害者への適切な支援に関する情報及び支援体制に関する課題についての情報を共有し、関係機関等の連携の緊密化を図るとともに、地域の実情に応じた体制の整備について協議を行うものとされているところでございます。

本日午前中には、特に高齢者の方を対象にした地域ケア会議がございまして、それぞれの分野に応じた会議、色々な連携、連絡の場がございましてけれども、課題が複合化していることで、様々な専門的な見地からのご見解等をいただきまして、今後の体

制を深めていくということで、ご議論いただいているところでございます。

本日も含めまして、委員の皆様におかれましては、専門的な見地から活発なご発言をいただきまして、松戸市の行政を含めた体制のほうを改善していくのに、効果的な場とさせていただければと思います。本日は、どうぞよろしく願いいたします。

事務局

続きまして、新たに委員として委嘱された方もおりますので、皆様より改めて自己紹介をお願いできればと思います。お名前のほか、お仕事や活動内容など、一言お加えいただけると幸いです。それでは初めに古川委員、次に早坂委員と、時計回りに自己紹介をお願いしたいと思います。古川委員よろしいでしょうか。

古川委員

皆様こんにちは。社会福祉法人 実のりの会、障害者就業・生活支援センター ビック・ハート松戸のセンター長をしております、古川と申します。

松戸地域におきまして、障害のある方の就労支援という形で、平成22年から馬橋のほうでセンターとして機能しております。最近障害の重度化もそうですし、発達障害の方々の対象者も増えてきていることだとか…。あとは、近々ではハラスメントの問題がありますけれども、センターの職員に対してのハラスメント等々で、強い言い方をされる利用者も増えてきたというようなこともありまして。障害者支援もそんなんですけれども、支援者を守るというような視点でも、今現在、活動をしているといったところです。今後とも、よろしく願いいたします。

早坂委員

早坂裕実子と申します。社会福祉法人 まつど育成会の統括施設長ということで、現場の統括をさせていただいております。

法人としましては、成人の方たちの生活介護、それから就労B、あと子供たちに関して児童発達と放デイというところを3年前から立ち上げまして、運営をしているところでございます。成人の方たちについては、知的障害の方の、やはり高齢化というところが課題になりつつありまして、日中の活動のあり方ですとか、生活のあり方が大きなテーマになってきているところでございます。一方で子供の分野におきましては、知的障害を伴わない発達障害のお子さんたちの相談というのが、非常に増えているという現状がありまして。そういったことの受け皿をこれからどのように考えていけばいいのか、こういう席もお借りして、皆さんにも知恵をお借りしていけたらと思っております。

どうぞ微力ではございますけれども、お役に立てればと思います。よろしく願いいたします。

大友委員

初めまして、こんにちは。まつど育成会 相談支援事業所カーラの太友と申します。

私は、普段の業務としては、計画相談。成人のほうの利用計画を立てているのと、児童のほうの相談支援もしております。児童は発達・知的障害専門でやっております。発達障害を持ったお子さんたちの相談は、お母さまからとても多いのと、こども家庭センターとか、最近スクールソーシャルワーカーの皆様からすごくたくさん相談が来まして、児童の相談の場所が本当に足りないということだったり…。発達の特性に応じた支援の描きの場所というのが本当に、そのアイデアをもらったり、ペアレントトレーニングの場所とかも本当に足りないという、たくさんの課題が出ています。やっぱり障害の子たちはマイノリティー。知的障害や発達障害の子たち、マイノリティーの子たちに対する特化した支援ってというのが、なかなか描きづらい環境にあるんだなっていうのを感じています。

成人のほうでは、やはり生活の場所というところでグループホームは増えているんですけども、特性に応じた、特に重度だったり、いろんな行動の個性を持った方たちの支援を描いていただける場所だったり、支援者がなかなか育っていかないという現状が増えておりますので、その辺のお話もこれからさせていただきたいと思います。よろしくお願いたします。

布施委員

株式会社スマイルケアブリッジの布施と申します。私は、松戸市内で生活介護事業を、サービス管理責任者兼理学療法士として、させていただいています。

主に僕たちが支援しているのは、重症度の高い医ケアのある方々が中心となっていて、利用者さんが多く来ています。もともと私も訪問看護で、理学療法士として在宅の支援に行っていたんですけど、その中でやっぱり年齢層 20代から 50代の障害の方が、行き場所がない。高齢者の施設ではちょっと合わない。だから閉じこもりになるっていう方々を多く目にしまして。そういった方々が、地域に一步踏み出せる場所をつくりたいなと思って、困っている人を助けたいと思って、そういう方々を支援している中で、重症度の高い方と外に出られなかった方々を主に支援しています。はい。

やっぱり重症度の高い方、医療ケアのある方々が外に出づらい。制限がかかってしまっているところで、うちはそういった方々をなるべく支援していこうと思って、支援員には今、3号研修で喀痰吸引の研修を受けてもらって、支援者が増えたらいいなあとと思って、補助・助成を使いながら、支援の手を広げていきたいと考えております。よろしくお願いたします。

江波戸委員

はい。皆さん、こんにちは。今回、障害者計画推進協議会の推薦のほうも兼ねて参りました特定非営利活動法人 LIFACT の江波戸と申します。よろしくお願いいたします。

普段は私、精神障害者の方の精神科病院からの退院だったり、地域定着、また計画相談という業務をさせていただいております。また、千葉県より松戸圏域、松戸市・流山市・我孫子市を対象にしたグループホーム等支援事業、また精神障害にも対応した地域包括ケアシステム事業を受託しておりますので、松戸市の課題を圏域の課題と相互に連携する部分が作用するように、一緒に調整ができればと思っております。よろしくお願いいたします。

金安委員

社会福祉法人 松里福社会の金安と申します。よろしくお願いいたします。普段は、小金基幹相談支援センターの管理者と計画相談のほうの管掌をさせていただいております。また、松戸市から委託を受けている緊急一時保護事業の短期入所の責任者もさせていただいております。

当法人は、知的障害の通所施設と、グループホーム、短期入所等をしているんですけども、この基幹相談支援センターのほうで、知的障害以外の方たちの相談っていうのは、僕はかなり重いなあっていうところがあるんですけども…。やはり先ほどもお話がありましたけれども、知的障害の方たちの高齢化も含めて、まあ親御さんがやはり高齢になっているので、他界されてしまったりということも多々あります。我々のところは在宅のほうが主なので、そういった方の先のところをいろいろと考えながらやって、模索しているところであります。

そういったところも含めて、松戸のところでは知的のほうをやって、長い間やってきたので、まあ知的のところではかなり進んでいるんだなあというふう実感しているところなので、そういったところも含めて何かお手伝いできればと思いますので、よろしくお願いいたします。

菊田委員

皆さん、こんにちは。特定非営利活動法人 松戸市障害者団体連絡協議会の菊田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

松戸市障害者団体連絡協議会には、知的と精神と身体それぞれの七つの団体がまとまっていて、当事者だったり、親の会だだだの形は少し違うんですけども、七つの団体が集まってできた連絡協議会となっています。私自身は25歳になる息子がおりますが、在宅でいわゆる重身の息子を生活介護に通わせつつ、一緒に暮らしております。

す。

障害者団体のほうも事業者さんと同様、やはり高齢化っていうのは避けられない問題として抱えておまして、今までは団体の中で情報を共有したり、親睦を深めたり、お願いごとなどを行政に働きかけたりするっていうのが主な活動ではあったんですけども、人数も少なくなってくる中、団体としての活動の意味というところで、ここ数年は一般の市民の方に向けての発信であったり、情報提供などにも力を入れていきたいと考えております。また、自立支援協議会の中でも、そういったことが発信していければいいなと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

今成委員

はい。皆さん、こんにちは。中核地域生活支援センターほっとねっとのセンター長をしております、今成と申します。

この中核地域生活支援センターは、千葉県の事業として平成 16 年から始まりまして、今年でちょうど、この 10 月で丸 20 年を迎えることになりました。本当に皆様のおかげで、日々色々とケースワークを中心に、あるいは地域活動も含めていろいろ連携、協力していただいて、本当に感謝しております。

ほっとねっとは、いわゆるだれでも何でも相談という形で、24 時間 365 日の相談受付でやってきているんですけども、年間大体 7,000 から 8,000 件ぐらいの相談が入っております。その中で初期相談としましては、6 割ぐらいが障害者に関するご相談になります。ただ、法的な認定を受けていない障害の方、障害が疑われる方も含めますと、大体 8 割ぐらいのご相談が、いわゆる障害児・者関係のご相談になっているかと思えます。

そのような中で、私もこの自立支援協議会でいろいろ学ばせていただいて、これからもまた一緒に、皆さんと取り組んでいければと思っていますので、よろしくお願いいたします。

星野委員

松戸市医師会の理事をしております、星野と申します。よろしくお願いいたします。

松戸市医師会は、在宅医療・介護連携支援センターという相談部門——支援者からの相談を受けとめて、必要なものは医師会員である医師がアウトリーチをするという、医師アウトリーチという制度も構えながら、全世代に対して相談業務を行っています。

年間 300 件ほど相談を承っていますけれども、去年度初めて、高齢の方のご相談を若年の方の相談が上回ったという形になります。医師アウトリーチも同様の傾向になっています。若年の方でいうと、お若い方の場合には精神科医療、精神科的な疾患を抱えている方、特に受診中断をしているという方が多い傾向にあります。そして、18 歳未満のお子さんの相談も多い状況です。多くは、ありがたいことにスクールソーシ

ヤルワーカーさんからのご相談が増えています。引きこもり、不登校というところが多いかなあとと思います。

そして、そのような家庭をセンターの保健師・看護師が訪問しますけども、かなりの確率でその親御さんも何らかの課題を抱えています。生活困窮であったりとか、その方がうつ病であったりとか。そして発達障害の問題で、子育てが十分にできていない環境だったりということで、世帯としての課題を覚知するということが多くなっています。

難しいのは、医師がアウトリーチをしたとしても、そのようなお子さんに「発達障害だ」とか、そういった診断をして、ラベル張りをすれば解決できるという問題でも決してないと思います。そのお子さんにとって必要な支援とは一体何なのかどうか、そしてそのお父さん・お母さんをどんなふうに医療に——医療的な課題があれば、おとなぎするべきなのかどうかというのに日々悩んでいます。

一番難しいのは、医療的な課題が薄いケース。ゼロではないですけども極めて薄いケースに、どのように福祉サービスにつなげていけばいいのか。その資源が、高齢領域——地域包括ケアシステムの構築に伴って整備された高齢領域の資源からすると、まだ少ないかもしれません。そういったものをいかに開拓したり、整備したり、そして有機的に結びつけることができるかっていうのが課題かと思っています。よろしく願いいたします。

加瀬委員

こんにちは。県立つくし特別支援学校 教頭の加瀬と申します。私自身は昨年度着任をいたしました。この会には今年度より初めて参加させていただきます。

本校ですが、松戸市金ヶ作にございます、知的障害のお子さんを対象にした特別支援学校となっております。学区としましては、松戸市の一部、それから鎌ヶ谷市、柏市の一部を学区としておりまして、今年度は新小学部1年生35名を迎えて、全校児童生徒296名と大変多くなってきております。これも以前、矢切特別支援学校に分離する前と同じぐらいの数字となっていており、学校としましては児童生徒の増加というところが、非常に悩ましく思っているところではあります。

様々なご家庭の状況ですとか、ご本人様の状況で、様々なお子様が増えてきており、地域の福祉のサービスの方々には、本当に各所いろいろなところで、きめ細やかに支えていただいていると思っています。また、本校は高等部もございまして、就労もそうですが、毎年20名から30名ぐらいの卒業生が、就労それから福祉サービスというところで大変お世話になっているところで。このあと、どんどん卒業生・在校生も増えていくところで、卒業生も増えていくので、どのように社会とつないでいくかというところは、先を見据えながら考えていかななくてはいけないところかなと思っています。

まだまだ勉強不足なことがありますので、この会を通じて勉強をさせていただければと思います。よろしくお願いいたします。

椎橋委員

千葉県立松戸特別支援学校 教頭の椎橋でございます。よろしくお願いいたします。私自身、今年度4月からの着任になりますが、その前は野田特別支援学校、その前が矢切特別支援学校、その前が松戸市立貝の花小学校、その前は松戸市の教育委員会にもいたことがありますので、久しぶりにまた3年ぶりに戻ってきたという気持ちでおります。

松戸特別支援学校は、肢体不自由の特別支援学校であり、今、校内では40名以上の医療的ケア児が学んでおりまして、看護師のほうも13人と…。前の野田の特別支援学校は4人で、その前の矢切は2人でしたので、医療的ケア児がとても多い学校だということで、それに付随して校外学習で外に出かけるとか、そういうときにもいろいろな課題があります。その課題を乗り越えながらやっていきたいと思います。自立支援協議会でも、たくさんの勉強をしていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

佐藤委員

松戸市社会福祉協議会から参加いたしました、佐藤美穂子と申します。よろしくお願いいたします。今回初めて参加させていただくことになりました。私の担当としては、日常生活自立支援事業という高齢者の方や障害者の方のお金の管理をする事業になっております。

障害の方は、精神とか知的障害の方。ご自分のお金を自分で管理できなくて、お金を使いたい衝動を抑えられないとか、そういう方が多くて、私たちだけではなくて関係機関の方と連携しながら、ご本人を支援していつている位置になっております。

この協議会を通じて、いろいろな勉強をさせていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

神保委員

弁護士の神保と申します。障害者虐待防止ネットワークからの選出ですが、ふだんは松戸駅の西口の駅に近い所の、ななつぼし法律事務所で弁護士業務をしております。松戸で開業して、早14年になりました。14年間、どんな方であっても属性を問わず、人権侵害に泣く方の権利を守るために頑張ってまいりました。これからも頑張ろうと思います。よろしくお願いいたします。

事務局

皆様、ありがとうございました。

それではここで、本日の資料を確認させていただきます。まず、事前に送付させていただいた資料について申し上げます。1つ目として、「会議次第」。2つ目、資料1「諮問書」。3つ目が、資料2「日中サービス支援型共同生活援助における地域公共団体が設置する協議会等への報告・評価について」。4つ目として、資料3「委託相談支援事業所評価部会について」となります。

次に、席上に当日の追加資料として配布させていただいた資料を申し上げます。1つ目として、「松戸市地域自立支援協議会委員名簿」。2つ目として、「事前質問票」。3つ目として、「会議次第」。こちらの会議次第は、事前に送付させていただいたものの内容を一部修正したものとなっております。資料に不足のある方は、お申し出ください。よろしいでしょうか。

それではここで、会議の成立についてご報告させていただきます。本日は田村委員、深澤委員よりご欠席のご連絡をいただいておりますが、委員総数の過半数を超えるご出席をいただいておりますことから、松戸市地域自立支援協議会条例第7条第2項の規定により、本会議は成立することを報告いたします。

3 会長選出

事務局

続きまして、今期の会長・副会長の専任でございますが、松戸市地域自立支援協議会条例第6条において、会長及び副会長を委員のご選任より定めることとされております。このことから、委員の皆様から会長のご推薦をお願いしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

江波戸委員

今成委員を推薦したいと思います、いかがでしょうか。

事務局

ただいま江波戸委員から、会長に今成委員のご推薦をいただきましたが、いかがでしょうか。

はい、ありがとうございます。ご異議がないものと認め、今成委員に会長をお願いしたいと思います。今成委員、どうぞよろしく願いいたします。

続きまして、副会長のご推薦をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

神保委員

江波戸委員を推薦したいと思います。いかがでしょうか。

事務局

ただいま神保委員から、副会長に江波戸委員のご推薦がありました。いかがでしょうか。

それでは、今成委員と江波戸委員は、会長・副会長席へのご移動をお願いいたします。議題に入る前に、お2人からごあいさつをいただきたいと思います。はじめに今成会長から、よろしいでしょうか。

今成会長

はい。改めて、ほっとねっとの今成と申します。前期の途中から、この自立支援協議会の会長として務めさせていただいて、引き続き担わせていただくというのは、私としては本当に勉強させていただき気持ちです。

ほっとねっとの場合は、本当に皆さんほど、それぞれの分野とくに専門性高くやっているわけではむしろなく、どちらかという浅く・幅広くというんですかね、いろんな分野の方々と連携・協力体制を取らせていただきながら、ケースワークですとか地域活動をやらせていただいている中でこの松戸市の自立支援協議会は、平成20年からですかね。松戸市自立支援協議会が始まって、ほっとねっとなとしても、最初はここの相談支援部会ですとか、いろんなそういう専門部会に携わらせていただく中で、私自身も本当にいろいろ松戸市の自立支援協議会に学ばせてもらっているなというのは、日々思っております。なので、引き続きですね、微力ながら当会長を務めさせていただきたいと思いますので、どうぞ皆様よろしくをお願いいたします。

事務局

それでは、江波戸副会長、お願いいたします。

江波戸副会長

はい。改めまして、江波戸と申します。よろしくをお願いいたします。私もですね、昨期の途中から副会長という形で参加させていただいております。本当に、先ほど皆様からもご意見もあったように、日々学びの場として、私もこの協議会を活用させていただいております。ありがとうございます。今期もですね、今成会長の補佐、または各委員の皆様からの情報提供をいただきながら、本協議会が活発になるよう、できる限り尽力させていただければと思います。どうぞよろしくをお願いいたします。

事務局

今成会長、江波戸副会長、ありがとうございました。

それでは、ここからは松戸市地域自立支援協議会条例第7条第1項の規定に基づき、会長が議長となり、議事進行をお願いしたいと思います。今成議長、よろしく願いいたします。

今成会長

はい、よろしく願いいたします。では、これより私のほうで議事を進行してまいります。

まず、本協議会の公開につきましては、松戸市情報公開条例第32条に基づき、公開を原則としております。議事につきましては、発言内容を要約の上、行政資料センター及び松戸市公式ホームページで公開いたしますことをご承知おきください。なお会議の内容は、議事録作成のため録音させていただきますので、ご了承のほどよろしくお願いいたします。

また本日、7名の傍聴の申し出がありましたので、これを許可いたします。どうぞ、ご入室ください。

(傍聴者入室)

4 部会員の指名

5 議題（1）諮問書について

今成会長

はい。それでは、まず次第に沿って議事を進めてまいります。まず議題1「諮問書について」を議題といたします。本協議会に対し、4月1日付けで松戸市長から諮問書の交付がございました。それでは諮問書について、事務局より説明をお願いします。

事務局

はい、事務局でございます。事前に送付しております、資料1と右上にナンバリングされている諮問書をご用意ください。

自立支援協議会に対し、4月1日付けで松戸市長より諮問書の交付がございました。内容としては、記載のあるとおり大きく分けて4点ございます。

1点目は、地域の障害福祉に関するシステムづくりに関する事項。2点目が、地域の関係機関によるネットワークの構築に関する事項。3点目が、相談支援事業の効果的な推進に関する事項。最後に4点目といたしまして、国及び県が定める評価等に関

する事項。以上、4点となっております。

こちらの内容につきまして、自立支援協議会において調査審議をお願いするものでございます。以上です。

今成会長

はい、ありがとうございます。ただいま事務局より説明のありました件について、松戸市地域自立支援協議会条例第8条第1講に基づき設置した各部会に、調査審議を付託いたします。

まず、1. 地域の障害福祉に関するシステムづくりに関する事項。2. 地域の関係機関によるネットワークの構築に関する事項及び3. 相談支援事業の効果的な推進に関する事項については、指定事項調査部会に付託いたします。続いて、4. 国及び県が定める評価等に関する事項のうち、(1) 重層的支援体制整備事業の事業運営等の評価については、委託相談支援評価部会に。また、(2) 日中サービス支援型共同生活援助については、日中サービス支援型共同生活援助評価部会に付託いたします。

なお、各特定部会とともに、個人に関する情報及び法人・その他の団体に関する情報を取り扱うことが想定されることから、松戸市情報公開条例第32条ただし書きの規定に基づき、会議を公開しないものと考えますが、これにつきましてご異議ありませんでしょうか。異議なしでよろしいでしょうか。はい。それでは、各特定部会ともに非公開といたします。

続いて、松戸市地域自立支援協議会条例第8条第2項に、「部会は協議会の任意を持って組織し、部会に属すべき委員は、協議会のうちから会長が指名する」と規定されておりますが。委員の選任について、事務局のほうから事務局案はございますでしょうか。

事務局

はい、事務局でございます。事務局案を、口頭でございますが提示いたします。まず指定調査部会については、早坂委員・古川委員・大友委員の3名を、委託相談支援評価部会につきましては、田村委員・菊田委員・加瀬委員・深澤委員・神保委員の5名を、日中サービス支援型共同生活援助評価部会につきましては、江波戸委員・佐藤委員・布施委員・星野委員・椎橋委員の5名を、こちらをそれぞれ事務局案として提示いたします。

今成会長

はい、ありがとうございます。ただいま事務局案が提示されました。こちらに関しましてご異議等ございますでしょうか。

はい、よろしいですかね。ご異議がないものと認め、この事務局案をもって各部会

に調査審議することとします。

5 議題 (2) 日中サービス支援型共同生活援助評価部会について

続きまして、議題2、「日中サービス支援型共同生活援助評価部会について」を議題といたします。部会員より、説明をお願いいたします。

江波戸副会長

はい。このたび、日中サービス支援型共同生活援助評価部会の部会長の江波戸でございます。私のほうから、6月4日に日中サービス支援型の共同生活援助評価部会を実施しましたので、松戸市内にある5つの日中サービス支援型グループホームについての評価報告をさせていただきます。お手元、資料2ですね。こちらを参照ください。

まず、評価対象である日中サービス支援型のグループホームについて、私のほうからご説明させていただきます。日中サービス支援型グループホームは、障害の重度化・高齢化に対応するために創設された、新たなタイプのグループホームとなっております。こちらにおきましては、短期入所を併設し、地域における障害者の緊急一時的な宿泊の場を提供することで、地域生活支援の中核的な役割を担うことが期待されております。施設入所支援を要する重度の方の地域生活への移行促進や、地域生活継続のための受け皿を目指すようなイメージとなっております。

続きまして、日中サービス支援型共同生活援助における、地方公共団体の設置する協議会等での評価ですが、本サービスの運営に当たり、運営者は当該事業所が地域に開かれたサービスであること。また、その質が確保されているかどうか。評価・要望・助言なども、自立支援協議会より年に1回以上受けるものとされております。日中サービス支援型グループホームを評価するため、松戸市地域自立支援協議会の部会として、先ほどご説明があったとおり評価部会が設置され、評価について付託されております。

次のページですね。「実施の流れ」というところになるんですけども、今年度の評価部会においては対面で実施をしております。評価の流れとしまして、まず事業所より事前に提出いただきました「報告・評価シート」の内容について説明を行い、昨年度に引き続き各事業所にご協力いただき、リモートによるグループホームの内容も実施しております。その後、説明内容や評価シートの記載項目について質疑・応答を行った上で、各部会員が評価を行いました。

評価シートの内容におきましても、昨年度の建議書にて提案を行ったところ、事務局により8の短期入所に——追っての資料になるんですけども——短期入所に関する項目について、新たに市の事業による受け入れ人数の記載についての追記。また、

新たな項目として 14 番に災害等における体制整備及び防災への備えについてが追加されましたので、ご報告いたします。

今年度は昨年度から 1 事業所増えておりまして、全体で 5 事業所を対象に評価を実施いたしました。事業者数が増えてきたことから、評価部会もスムーズに進行するよう、今回より質疑・応答につきましては一部事前質問制を導入しております。

評価結果におきましては、資料 2 後半の「報告・評価シート」に記載しております。本日の協議会において皆様よりご承認いただき、9 月ごろに県協議会へのご報告及び事業所への評価結果の送付を予定しております。

お手元の資料ですが、5 ページのほうを参照ください。実際の評価におきましては、当日 4 名の委員にて、以下の 4 点について注目し、評価を行いました。1 点目、重度及び高齢の方の障害者をはじめ、より支援を必要とする方に対して手厚い支援が行えているか。2、ホーム内で日中の支援ができる体制を整えつつ、地域社会に開かれた活動の機会を利用者に提供し、できる限り外部の社会資源の活用に努めているか。3、難病を含め、障害種別を超えた支援体制が構築されているのか。4、日中サービス支援型共同生活援助において設置義務がある、短期入所の利用状況はどうか。

続きまして、各事業所の評価内容について簡単にご説明いたします。資料がありまして、お手元の「報告・評価シート」という、縦長の A 4 をご用意ください。1 事業所目は、「あおば」になります。資料 2 の 7 ページからの記載となっております。すべてをご説明するには時間が足りませんので、内容を割愛して報告させていただきます。

まず評価項目 2 の「利用者状況」については、全体で 5 つのホームに 37 名の方が入居されております。入居者の年代は 40 代・50 代の方がほとんどで、7 割程度の方が支援区分 6 となっております。障害種別におきましては、全員が知的障害の方で、一部身体障害も重複されている方がおります。

5 の「利用者に対する地域生活の支援状況について」。休日は移動支援を活用して外出の機会を確保し、地域生活の充実を図られている点。また、松戸クリニックの閉院に伴い、訪問診療を導入されるなど、日々のアセスメントがなされた対応について評価をいたしております。

8 の「短期入所の併設について」。昨年度実績で、市事業による受け入れ 11 名を含む 62 名の受け入れがありました。また、緊急的な受け入れを 17 名実施しており、地域資源として浸透し、機能されていると高く評価いたしました。

14 番の「防災の備え」につきましては、食料品の備蓄や、人的支援が計画されていることを評価するとともに、防災に対する具体的な取組について次回示していただくよう、部会のほうで要望しております。

合わせまして、15 の「協議会からの要望、助言への対応」についてですが。昨年度要望した移動支援の利用者数は 7 名で、利用回数は 1 人当たり平均月 3 回との回答がありました。また、各利用者の支援状況については、適切な供用がなされていると判

断しております。

続きまして、2事業者目の「ソーシャルインクルーホーム松戸東平賀」のご説明に移ります。お手元の資料の10ページからの記載となります。

こちらにおきましても、2の「利用状況」について、現在8名の方が入居されており、入居者の年代は40代。支援区分は4と5が中心となっております。障害種別におきましても、身体・知的・精神の方がまんべんなく入居しております。

4の「日中活動について」。生活介護や就労移行支援などの外部の利用サービスともに、利用されていない方につきましても個々にスケジュールを組み、必要に応じて訪問サービスを利用されるなど、柔軟な対応を評価いたしました。

5番の体験利用につきましても、こちらの事業所におきましては無料体験入居の施策についても高く評価し、ぜひとも継続をしていただくようお願いをしております。

7の「地域に開かれた運営について」。管轄消防署の協力を得て避難訓練を実施した点を、地域の交流と防災を兼ねる取組として評価いたしました。

8の「短期入所」につきましても、松戸市地域生活支援拠点に登録いただいたため、今後のさらなる受け入れを期待している旨をお伝えしております。

10番の「他のサービス事業所との連携について」。グループホーム側から積極的な情報共有をされているほか、相談支援専門員だけではなく、県の事業にあるグループホーム等支援ワーカーを活用とされている点が好ましいと判断しております。

14の「災害時における体制整備について」。各種計画が整備・共有されているほか、避難訓練を定期的実施し、参加できなかった職員にも情報共有がなされている点を評価いたしました。

16の「その他」の事項につきましても、現在は食事を居室でされておりますが、感染症の影響とご説明を受けております。なるべく共同で食事が取れるよう、検討を要望しております。

続きまして、3事業所目「ふわふわ松戸」になります。お手元の資料2の14ページからの記載となっております。

2の「利用状況」について、20名の入居者のうち、支援区分4～6の方がほとんど。かつ40代・50代を中心に幅広い世代の方が入居されております。障害種別は知的の方が多く、身体・精神の方も数名おります。また、強度行動障害の方は6名となっております。

4の「日中活動について」。強度行動障害のある利用者に対して、マンツーマンによる支援ができていると評価いたしました。外部の日中活動サービスについて、記載欄に「移動支援」とありますが、移動支援は通所先ではなく通所するための手段となるため、次回以降、記載を改めていただくよう要望しております。

5番の地域交流につきましても、グループホーム内でイベントや余暇活動等の開催、外出時のあいさつ運動を継続して実施されていることに加え、入居を前提としていな

い体験利用を積極的に受け入れている点を評価しております。

7番のボランティアの受け入れについて、昨年度に引き続き、継続して受け入れられている点を評価しております。

8番の「短期入所」につきましては、図面も私たちは確認しているのですが、グループホームに隣接する短期入所事業所にて受け入れられているとのご説明を受けております。

11の「従事者の実務経験について」。管理者の方は「実務研修受講中」とありますが、ほかの事業所様は社会福祉士さんだったり配置されていることに加えて、こちらに関してはいなかったため、専門的な知識が必要なため、より一層の研鑽という部分で要望しております。

13の「利用者の受け入れ判断基準について」。支援区分の高い重度の方を積極的に受け入れる姿勢は、地域の資源として貴重であり、評価しております。

最後、15の「協議会からの要望」について。昨年度要望した災害時の避難訓練についての記載はあったのですが、具体的な訓練方法について示していただくよう、重ねて要望いたします。

4事業所目は、「しんわ松戸」になります。資料2の18ページからの記載となります。

こちら2の「利用者状況」について、入居者17名のうち入居者の年代は30代と40代。支援区分は、5と6の方が中心となっております。障害種別は、ほとんどが知的の方で、強度行動障害の方が約8名と、半数を占めています。

4の「日中活動について」。グループホーム内における健康面の支援や、日常生活に必要なスキルを習得できる支援を評価しております。入居者全員が外部の日中活動サービスを利用しておりますが、同法人が運営する生活介護事業所の利用者が多く見受けられるため、外部サービス等、適切に検討されていることが望ましいと思われま

す。5の「地域生活の支援状況について」。休日も積極的に外出する機会をつくられている点を評価いたしました。また、体験についても積極的に受け入れられており、実際の入居につながっていることが見受けられました。

7の「地域に開かれた運営」につきまして、家族と地域との交流がやや受身的であると思われましたので、意図的に交流の機会を設けるよう要望いたします。

8の「短期入所」について、緊急一時的な受け入れにつきましても、体制の整備や受け入れの検討を要望しております。

10番の「他の事業所との連携について」。訪問診療や訪問薬局といった医療機関との連携がされており、実際に感染症が流行した際に対応いただくなど、日ごろからの取組を評価いたしました。

11の従事者の配置につきましても、職員の離職があり、会社全体で組織の再建をされていることでしたので、職員の定着のほうを期待しておりますということをお伝え

しております。

13 番「利用希望者の受け入れ可否の判断基準について」。体験を複数回実施されるなど、丁寧な対応がうかがえましたが、ホーム全体の問題として事業所にエレベーターがないため、重度の方への対応や、将来的に利用者が高齢になられた場合の対応について、十分な検討が内部でなされているのか疑問が残りました。

最後に、令和6年1月に新たに開設した「バンビのおうち・いずみ」になります。資料2の22ページから記載になります。こちらを運営されている法人は、放課後等デイサービスの事業所を運営しており、グループホームの運営は当事業所が初めてのことでした。

2の「利用者状況」につきまして、入居者3名のうち、年代は40代2名と50代1名。支援区分は4が2名と、5が1名となっております。障害種別におきましては、身体の方が2名、精神の方が1名となります。

4の「日中活動について」。外部サービスを利用されない方も、規則正しく、閉じこもりがちにならないよう外出の機会を設けている点や、外部の事業所と連携して支援を行われている点も評価いたします。

8の「短期入所」について、開設から日が浅い中でも受け入れをされておりましたので、今後の受け入れ拡大に期待しております。また、短期入所用の居室が2階にあるため、こちらの施設においてもエレベーターがないのですけれども、ホームの構造上、下肢に障害のある方の利用が困難ではないかと懸念しております。

9の「支援体制の確保について」。十分な人員が確保されており、特に法人の意向により土日、加えて夜間の配置を手厚くされている点を評価しております。

10の「ほかのサービス事業所との連携について」。入居者の体調が急変された際に、関係機関と積極的に情報共有されている点が、非常に望ましいと判断しております。

11の「従事者の資格取得状況」については、サービス管理責任者について必要な研修が受けられていないように見受けられたため、適切な資格取得者の配置を促しました。

13の「利用希望者の受け入れ基準について」。関係機関との調整会議を行った上で判断されている点を評価いたしました。また、先ほどお伝えしたように、法人として初めてのグループホームであることから、対象をある程度設定し、最低限の判断基準を明確にされたほうが支援体制を構築しやすいのではないかと助言しております。

駆け足になりましたが、評価は以上となります。これまでの5事業所の評価を委員の方に知らせているのですけれども、今後、松戸市、また松戸市外の流山市・我孫子市圏域のほうで、やはり日中支援型のグループホームの開設相談を多く受けております。今後、ホーム数が増えていく中で、適切な評価を検討するために、再度、部会で検討しているところであります。

以上で、日中サービス支援型共同生活援助評価部会からの報告といたします。

今成会長

はい、ありがとうございます。ただいまの説明につきまして、これから意見交換に入りたいと思います。本件につきましては、3件の事前質問を委員の皆様からいただいております。事務局より各席に、当日資料としまして質問内容の一覧が配布されています。まずは事前質問内容を優先的に議論いたしまして、お時間の許す範囲で当日質問の受付も行いたいと思います。なおご発言の際には、会場の方はマイクのボタンを押して、名前をご発言の上、ご発言くださいますようお願いいたします。

それではまず、質問No. 1につきまして、質問者の星野委員より、質問の内容のご説明をお願いいたします。

星野委員

星野です。質問させていただきます。文章を読んでいただければ、このとおりなのですけれども、資料ナンバー1、議題の2の「報告・評価シート」というものの、14ページから始まる事業所についての質問をさせていただきました。

回答にも書いてあるとおりなんですけれども、「個別事例のため、この場での回答は控える」ということと、この日中サービス支援型グループホームの評価に関しては、運営が地域に開かれているか、サービスの質が確保されているかとの視点のみによって審議をするということなので、この件については性格の異なるものであるということで、除外するという事かなというふうに理解しました。評価は評価ということで、項目が違うということは理解しますが、このような問題をどの場で、報告であったり、共有していくのが適切なのかなというのが追加の質問となります。

諮問の4番の(2)で、日中サービス支援型共同生活援助の評価を行うわけですが、こういった事情を我々委員として知らぬままに、基準に沿って審議をしていけばいいのか。そういったことの、審議の項目ではないけれども、やっぱり知っておいて審議に臨むのかで、大分違うようなところなのかなと思います。

ちょっと話は違いますが、医師も「高血圧だけ」というよりも、「この方は、実は変形性膝関節症を持っている」だとか、「腎臓も悪い」だとか、そんなこと全部を見ながら、高血圧をどうしようかと考えると思いますので。こういう自分の診療科じゃない問題も、どうなっている？とか、患者さんに聞きながら診療しています。ですので、この件をどういう形で共有していただくのか。まあ、この場ではないというのであれば、障害者計画推進協議会のほうに報告をされるのか。どんなふうにしながらか進めていくおつもりなのかということで、追加の質問とさせていただきます。

今成会長

はい、ありがとうございます。では一つ一つ、回答に関しまして進めてまいりたい

と思います。まず事前質問に対する回答のほう、さらにはただいま追加のご質問もございました、どのような場で、このような問題に関して共有、あるいは議論・検討していくほうがよろしいのかということだと思いますけれども。それに関しましてもご回答のほうを事務局のほうから回答していただく形でよろしいですか。

事務局

はい、事務局より回答させていただきます。

まず、先に星野委員が回答の部分のところからお答えいただいたと思うのですが、株式会社の恵の件につきましては、個別事例のため、この場では控えさせていただきますということでご了承いただいたと思います。特に日中サービス支援型グループホームの評価については記載のとおりになります。

また、星野委員からご質問のあったグループホームの評価についてどこで議論していくのかというところがございますけれども、現在は、深く議論できる場というのは、会議体としてはないというのが現状でございます。

障害者計画推進協議会も提示いただきましたけれども、計画策定が主の会議体ですので、一旦内部のほうで預らせていただきまして、その上で今後、検討を進めてまいりたいと思います。

今成会長

星野委員、ただいまのご回答に関して、よろしいでしょうか。

星野委員

では、引き続きお願いしたいと思います。計画を審議する上でも、このような形で、共同生活援助を評価する上でも必要な情報なのかなとは思っていますので。そして、この事業者について議論をしたいとかということも、私個人としては思っていないくて。どんなふうに進んでいるのかだとか、実態について知っておきたいというだけですので、それに参画をしたいとか、そういうことではないということはつけ加えておきます。以上です。

今成会長

はい、ありがとうございます。続いて、質問表 No. 2のご質問に関しまして、こちらも星野委員より、まず質問の説明のほうをお願いいたします。

星野委員

はい。こちらも同様の事業所についてですけれども。ニュースでも皆様ご存じだと思いますけれども、順次、全国的に指定更新を認めない方針になるというところでし

たので、市としても利用者保護の観点からどのように支援をしていくのかということをお聞きしています。この「具体的なスケジュール」ということではない、ちょっと書き方が不適切だったかもしれません。「具体的なスケジュールは個々のケースによって」というふうにご回答いただいていますので。個々のケースというよりか、市としてまずどんな内容をいつやって、次はという、そんな形で。個々のというのは、かなりバリエーションがあるというふうに思います。

例えばですけれども、愛知県の例で言うと、6月26日から県内のグループホームの空き状況を、県として調査を開始したみたいです。そして結果を市町村に提供して、グループホームには積極的に受け入れをするように依頼をしたということでした。そして障害の程度が重く、転居所が決まらない人に対しては、県の医療療育総合センターで一時的に受け入れを調整するということでした。

そして市としては——対象者が104名だったみたいですけれども——速やかに本人・家族のヒアリングを開始したということです。それを受けて、7月に障害福祉の専門家などによる利用者支援チームを立ち上げた上で、受け入れ先の確保に乗り出したという。そんな、県がやること、市がやること——ヒアリングをして、そのあと専門家によるチームを立ち上げてというのは、市だけがやるというのは結構負担でしょうから、我々のような専門家がそこにコミットするような、そんなチームでやるということでした。愛知県の場合、当事者の県・市ですから、そういったように先行して始まっているのかなとは思いますが。

ですので、そういった意味での「具体的なスケジュール」と書いたつもりでした。ですので、市としても、「何年に更新が切れる。そうすると、その前からどれくらいの余裕があるのか」とか、「どれくらいの人数なのか」とか、そして「どんなふうに移行を進めていくのか」とか。ヒアリングをして、実際にその移行を担うような、受け入れ先の確保を選定するようなチームって一体どこなのか。そんなところを、大まかにでも考えたほうがいいかなと思って質問しました。よろしくお願いします。

今成会長

はい、ありがとうございます。ただいまのご質問に関しましての回答になりますけれども、事務局のほうからよろしいでしょうか。

事務局

はい、事務局より回答させていただきます。今、星野委員がおっしゃったように、細かく千葉県の方で何かのチームをつくってというところまでは、まだ情報として市には降りてきてはいないので、まず、やはり千葉県内にも13のグループホームが存在しています。松戸市の中でも、約20名弱の方たちがそのグループホームに入居されているというところで、まずはグループホームの体制というところですね。

利用者さんを守るという意味でも、グループホームの職員の方たちの不安もありますので、職員の方たちが退職してしまわれては、利用者さんたちがそこで生活していくことがとても維持できなくなってしまいますので、まずはそのグループホームの体制のところを確認するようということで、1回、市のほうでは現地に調査に行っております。

そのうえで、今後なんですけれども、利用者さんにご家族等々の意向を確認して、その意向に基づいて次の施設を探していくというようなスケジュールに今はなっております。県のほうからも言われていることですし、グループホーム等支援ワーカーの方からも直接お話をさせていただいている中で出ている話としては、やはり次の行先がなかなか見つからないという方の場合には、県だったり、グループホーム等支援ワーカーの方にご相談いただければ、空き情報のほうを把握はさせていただいているというところなのでご相談くださいということで、連携できる体制にはなっているかなとは思っています。

ただ、報告にもあったとおり、グループホームに入っている方たちが重度の知的の方たちなので、今日明日で「はい、次のところに行ってください」といって、生活が落ち着く方たちではないと思うんですね。なので、本人たちの意向、ご家族の意向で今すぐ動かなきゃいけないのか、それとも、もうちょっと体験を重ねて、ゆっくり本人に「生活するのは、ここなんだよ」というのを理解していただけるよう支援していけるように、ちょっと慎重にはならなければいけない部分もあるのかなって考えているのが、今の現状になります。以上です。

今成会長

はい、ありがとうございます。星野委員、いかがでしょうか。

星野委員

ありがとうございます。丁寧に考えていただいていると思います。まあ20名弱といっても、おっしゃるとおり療養の場・生活の場を動かすと、症状であったりとかそういったものが大きく変わってしまう可能性もありますので、20名は少ないようには聞こえますけれども、移行は非常に大変なのではないかなと思いますし、確かに体験だとかも繰り返しながら、丁寧にその場に慣らしていくっていうところも踏まえると、早めに行動していくことが必要かなと思いますので、ぜひよろしくお願いします。

今成会長

はい、ありがとうございます。続いて質問No. 3に関しまして、質問者の星野委員より、まず質問のご説明をお願いいたします。

星野委員

地域連携推進会議というものが行われるということで、今年度は努力義務で、来年度は義務化されるということでした。この虐待や不正を見抜くという、なかなかそういうことに関しては、外部の目が入らないと難しい。こういった書面だけで上がってくる情報では難しいという限界がある中で、この地域連携推進会議を適切に構えるということは、非常に有効な手段なのではないかなというふうに思います。

これは実施要項にも書いてありますけれども、「高齢者領域における運営推進会議にならって」ということが明瞭に書かれておりますので、一つこの運営推進会議の開催の仕方というのが、鍵になるかなと思って書いております。実際には地域包括支援センターや市の職員、基幹型の地域包括支援センターの職員の方が、手分けして参加していただいているという状況だと思います。そのようなことを踏まえたうえで、地域連携推進会議にどのように、基幹相談支援センターであったりだとか、市として役割を担っていただけるかということで、質問をさせていただきました。

回答としては、今後も検討していくというようなところですし。職員配置であったり、その負担ですね、そういったものも勘案していかなければならないので、引き続き検討していただければと思うんですけれども、時間があまりないかなと思います。来年度から義務化されますので。そして、このような虐待であったり、不正が疑われるような事案も発生していますので。来年度から最初から完全なものではないにしても、どのような形で進めるかというのは、今年度中に決める必要が、一旦は決める必要があるかなというふうに思いますので、検討を進めていただければと思います。以上です。

今成会長

はい、ありがとうございます。ただいまのご質問に関しまして、回答のほうを事務局よりよろしいでしょうか。

事務局

はい、事務局より回答させていただきます。おっしゃるとおり来年度から義務化なので、どういうふうに関わっていくかっていう所は、今年度中にある程度の想定をしなければいけないのかなと思っていますところではあるんです。介在するグループホームの事業所側の方たちも、今そこを摸索して、今年度開催して行くという形になっているかと思っていますので、その状況をグループホーム等支援ワーカーの方とも共有させていただきながら、どのように参加していくのか、市役所としても、基幹としても、一度に全部の事業所に入れるのかどうかというところはありますので、順次入っていくって形にするのかななども含めて、検討していきたいなと思っています。

今成会長

はい、ありがとうございます。星野委員、いかがでしょうか。

星野委員

はい。まず今年度は努力義務ですから、今年度で開催されたものを見ていくという方針もいいかなって思います。運営推進会議の例ですと、施設側が決めた内容・次第を見ますと、私も参加することがありますけれども、取組であったりだとか、企画であったりだとか、そんなものを報告していただくこともあります。ですので、「ひな祭りをやった」とか、そんな行事があったり。「外に食事会を設けた」であるとか、そういった形をすると、その一端がわかるかと思えます。

ただ、どのような食事が提供されているのかであったりだとか、以前も話題にしましたけれども光熱費の問題であったりだとか。そういったものは、なかなか施設側からデータというか、そういったものは出てきにくいかもしれません。ですので、そういった項目に関しては、ある程度市がイニシアティブをとって、「こういった項目も会議に出すべき」というふうな形で、ある程度形を決めていく必要もあると考えます。そんな項目もあるのかなと思えますので、併せて検討いただければと思います。

今成会長

はい、ご意見ありがとうございます。はい。では、議題2に関しましても、事前質問に関しては以上なんですけれども、まだ少し時間あるかと思うので、ほかに皆さんのほうからこの議題2に関しましてご質問は。はい、お願いいたします。

早坂委員

早坂です。星野委員からご指摘があった経営の部分なんですけれども。

実はこの会社が、本体で全部利用料を集約して、そこから各事業所に配分をしていたって話も聞いています。そういう中で、食費が割り当てられていたということも聞いています。そうすると、本当にご本人たちが満足するような食事の提供がきちんとなされていたのであろうかといったようなことは、今回の評価のところにはまったく上がってきていないという実態です。

そういう運営方針であるということと、それから指定が、このあと3年間は継続して運営ができるのだと思いますが、この3年の間にどういう方針でこのホームを支えていくのか。例えば、このホームごと、利用者さんを動かすのではなくて、ホームごと、どこかの法人が運営を肩代わりするという方法もあるわけです。そういうことも含めて、どこでほんとに議論をして、この方たちを守っていくのかっていうことが、すごく大きな課題ではないかと思っています。

実は、千葉県の方から知的障害者福祉協会のほうに依頼があって、万が一の場合

にどれくらいの入所施設なりグループホーム、協会に加盟しているホームが、どれくらい人を受け入れることができるかというふうな調査をしております。正式に、公式にまだ人数発表していないんですけれども、100を超える人数は、千葉県内の方針で受け入れる用意があるという回答が来ているそうです。そういったことも、情報としてたくさん共有しながらですね、こういった運営があった場所に対して、我々がどうジャッジの目をきちんと向けていくのかっていうのは、実はとても大きな課題だと思います。

続けて申し上げますと、日中支援型っていうのと、一般グループホームの差異は一体何なのかっていうのが、私はいつもこの会に出ていて納得いかない部分があります。日中、毎日ちゃんとほかのところに通うことができる方たちなら、普通のグループホームで十分足りるはずですよ。たまに行けるけれども行けないことがあったり、精神に負荷がかかったり、あるいは行動障害が強くて、受け入れ先のほうの問題もあるみたいなことがあった場合に、この24時間日中支援型というグループホームが活かされるのではないかなと思うんですが…。そういったところのジャッジが、私にはあんまり明確になっていないような印象がとても毎回あって、毎回、多分お話をさせていただいていると思うんですが。

もちろん国基準があつての日中支援型ではありますけれども、やっぱり重度で医ケアがあつたりとか、行き場所が、通うことが難しい方たちをどうやってここで支えていくのかっていうことは、もう少しこの日中支援型がどうあるべきかという方向に、議論があつてもいいのかなっていうふうなことを常々思っております。

意見として言わせていただきますし、情報提供ということなので、ここでご回答ということではないんですけれども、ぜひ。これは結構大きな問題だと私は思っていますので、食事の提供とかですね。あと、正直、職員さんはやめているということで、ある県では実は、報告はなかったけれど40人の利用者さんを2人の支援員で見ているというグループホームがあるという実態も浮き上がっています。ですので、やっぱりきちっと調査をしていくべきではないかというふうに感じております。協会の一員ですので、そちらからまた情報があつたときには、情報を共有させていただけたらなというふうには思っております。以上、意見です。

今成会長

はい。早坂委員、貴重な情報提供も含めて、ご意見ありがとうございました。

では終わりにもう一方、もう1つくらいご意見等。はい、お願いいたします。

大友委員

すいません、大友です。今のと付随してちょっと、もっと身近なところの意見なんですけれども。先ほども申したみたいに相談の立場としては、引きこもってしまった

り、いろんなところに通えない方たちの行き場とか、ほんとに困っているところではあるので、これから日中支援型を指導なさっていくときに、そのへんの部分でも精査していただければと。

あと、グループホーム全体の質みたいなのところとか、特性みたいなのところも見極めながら、ちょっと松戸市の中で配分していくではないですけども、「ここではこういう方を受けてほしい」というのをやってほしいと思います。

ちょっと、ほんとに小さいこととか、大きいことなんですけれど、気になったのがソーシャルインクルーホームのところかな、「なるべく共同で食事がとれるよう検討をお願いしたい」とあったのですけれども、ほんとにみんな一緒に食事がとりたいかっていうと、やっぱり成人して普通に働いている中で、それぞれの個の選ぶ生活っていうものがあるって、その中で「当たり前と一緒に食事をとれること」のほうが正になってしまうと、ちょっと違うのかなと思っていて。

それこそ個での生活の中で、ときどき一緒に食事だったり、一緒に交流の機会も持つとか。いろんな考え方はあるんですけども、やはりこの辺をこう謳ってしまうと、個別の特性、発達障害の方なんか、余計に人との距離感というあたりが難しいのもあるので、その辺は、個別の特性に合わせた生活が描けたりとか、そこに出来上がった集団でどう仕組んでいくかみたいなの。そこにいる人たちの個性でどう組み合わせていくかみたいなのところもできるので、もっとその支援内容としては、個も見ながら全体も見ながらというところで、アドバイスできるようなものとか、提案ができるかというところについていただきたいなというふうに思いました。以上です。

今成会長

はい、ありがとうございます。ただ今の友大委員も、こちらのご意見ということでよろしいですかね。ありがとうございます。はい。

では、すいません、ちょっとお時間の関係もでございますので、次に参りたいと思います。

星野委員

よろしいですか。

今成会長

星野委員、お願いいたします。

星野委員

会長・副会長に提案なんですけれども。

今、早坂委員からも、ウォッチしていくことが大事なんだという話がありました。

ですので1つ提案としては、この第1回はこれですけれども第2回以降、「その他」っていう項目がありますので、引き続きこの事業者の問題に関しては経過というかを、市からご説明いただいたり、我々が入手している情報を共有したり。別にその事業所が悪いとか、それを詰めるとか、監査するとかっていうのはこの会の目的ではないので、そういうことをしたいわけではないですけれども、やはり何らかの目あわせだったりだとかというのは、したほうがいいのではないかなというふうに思います。

今日も傍聴の方が7名、多くの方が来ていただいていますし、議事録も市民の方に対して公開される中で、こういう問題が現在進行形で松戸市でも行われている中で、1回もこの会で議論がないという議事録をご覧になった市民の方とか、障害を抱えるご本人だったり、ご家族の方がそういったものを見たときに、誤解というか、そんな感情を抱かれるかもしれませんので、何らかそういったものを議題として設けておくことは必要なかなとは思っています。

今成会長

はい、ありがとうございます。ただ今、星野委員からご提案がございました。事務局にも、ちょっとご意見いただければと思いますが、先に江波戸委員のほうでご意見いかがですかね。

江波戸副会長

はい。星野委員、ありがとうございます。星野委員とは、私も一緒に当日の評価について参加させていただいたのですけれども、やはりこの会社だけに限らず、ほかの事業所もどうかという部分も併せて検討するべき必要性があるのではないかと…委員としては評価の観点をもっております。

ちょっと話はそれてしまうんですけど、千葉県としましても、市のほうにご本人様たちのヒアリングだったりを実施していただく。もちろん、中には回答ができないという項目も、当然利用者の特性によってはあるんですけども、そういった県の事業と市の事業とが連動していくことが、本事項への解決になると思います。そこに付随して、この自立支援協議会がどのように絡んでいくのかっていうのは、おっしゃるとおり市民の方、また当事者の権利を守るうえではとっても大事なことだと思っています。私は、星野委員のお考えに賛成とさせていただければと思います。私からは以上です。

今成会長

はい、ありがとうございます。では事務局のほう、いかがでしょうかね。今後もこの自立支援協議会場で経過報告、逆に言えば、見方を変えれば、市が何かしら今後把握していくような動きっていうのは求められるのかなと思うんですけど。あと

はこの場で、何かしらの情報交換みたいなことというか、継続できればというご提案だったかと思うんですけども。事務局のほうは、いかがでしょうか。

事務局

事務局より、回答させていただきます。おっしゃるとおり、すごく大事な話になってくると思いますので、事務局としましても前向きな方向で検討して、次回のところでもまた情報共有を含めて、このあと動く流れの部分をご報告できればなと思っております。一旦、検討させていただきますということで、ご回答させていただければと思います。

今成会長

はい。星野委員、よろしいですかね。はい。では、よろしく願いいたします。

5 議題 (3) 委託相談支援事業所評価部会について

では続いて、議題3の「委託相談支援事業所評価部会について」を議題といたします。まず部会員より、ご説明をお願いいたします。

菊田委員

はい。委託相談支援事業所評価部会について、ご説明をさせていただきます。私、委託相談支援事業所部会の部会長に就任いたしました、菊田でございます。

まず、今回の事業評価の対象に関連して、松戸市の相談支援体制につきまして説明させていただきます。お手元の資料、右側に「資料3」と書かれている横長のA4の資料のほうをお手元にご用意いただければと思います。

松戸市では4つの委託事業により、障害のある方・ご家族等への相談支援を行っており、その委託先は3つの基幹相談支援センター及びサポートセンター沼南となっております。基幹相談支援センターについては、市内を中央・小金及び常盤平の3圏域に分けた圏域ごとに設置されていて、障害に関する総合相談に加え、引きこもりに関する相談も受け付けています。サポートセンター沼南については、近隣市を含む特別支援学校の在校生・卒業生等を対象とする相談先で、就労相談、生活相談、年金相談が主となっております。松戸市以外に、野田市及び流山市の委託先にもなっています。

ここから資料3の1ページ目の記載内容になりますが、自立支援協議会の主な機能の1つに評価機能があります。また、先ほど説明させていただいた委託事業については、松戸市の相談支援の中心的な役割を担うとともに、国の補助金の対象事業ともなっており、同補助金の実施要項では、自立支援協議会における事業内容評価等が規定

されています。これらの評価根拠に基づき、松戸市でも自立支援協議会が毎年、委託相談事業所の事業評価を実施しています。

評価部会の流れについては、2ページから3ページに、全体の流れと当日の流れを掲載しておりますが、併せて説明させていただきます。

まず自己評価として、各事業所より事前に、評価シートに4段階の点数や詳細を記入していただきます。その後、書類審査としてその評価シートを元に、各委員により大まかな評価をします。5月29日に実施した評価部会の当日には、障害福祉課から各事業所の設置経緯等の説明のあと、ヒアリング審査として各事業所より事業評価シートの項目に沿って説明をしていただき、その上で記載項目について質疑・応答を行なった上で、各委員が評価を行ないました。本日の自立支援協議会において、その評価部会での結果をベースにご審議いただき、評価を確定するという流れになります。

資料4ページでは、評価担当者の選出方法について記載しております。

5ページから8ページまで、各事業所の評価結果の概要に入る前に、評価結果の概要のレイアウトについて説明させていただきます。資料の5ページをご覧ください。左上にレーダーチャートがあり、こちらにつきましては過去2年分の評価と比較できるよう、令和5年度は青、4年度は赤、3年度は緑の線で表示しております。また、今年度の点数の詳細として、右半分に評価点内訳の表を掲載しており、レーダーチャートの点数と、表の左側の点数がリンクしている形になっています。

「評価点内訳」の表の右側の点数は、5名の評価委員の点数を平均したものです。その右隣には、サポートセンター沼南及び基幹相談支援センターの自己評価点を表示しています。結果の概要につきましては、時間の都合上、委員のコメント等すべてを説明することは難しいため、評価点数、主な評価項目やコメントに絞って、当日のヒアリング順に説明いたします。

では、まず1つ目、5ページをご覧ください。1事業所目のサポートセンター沼南につきましては、運営体制は3.1、人員体制3.1、相談業務等3.3、課題と改善策2.3でした。前年度との比較ですが、すべての項目が前年度とほぼ同評価でした。

委員からのコメントについてですが、評価できる点として、人員体制については24時間緊急対応が可能な体制を構築していること。職員の人材育成については、一般的に理解が低いとされるLGBTQの研修参加、相談内容の把握・分析等について、「事業所としての得意分野を把握できているのが強みである」などといったコメントが挙がっていました。改善を求める点としては、人員体制について、24時間体制を構築している分、職員の負担も大きいと思われるので、「職員の負担軽減を並行して考えるべき」とのコメントも挙がりました。

また、松戸市の課題として、「相談支援専門員の事業所と人数が少ない」との記載があり、改善を求める点として、「各相談支援事業所が抱える件数が多い」、「どの事業所についても慢性的な人手不足のため、やむを得ないと思われる」、「行政と一緒に対策

を検討してほしい」などのコメントも挙がりました。

続きまして、6ページをご覧ください。2つ目の事業所、中央基幹相談支援センターにつきましてご報告いたします。こちらレーダーチャートの点数は、運営体制が2.9、人員体制3.0、相談業務等3.1、虐待対応3.4、差別対応2.6、その他の業務3.2、課題と改善策3.3でした。こちらの前年度との比較ですが、人員体制、それからその他業務等、また課題と改善策については、それぞれ増加が見られました。また一方、運営体制につきましては、前年度3.3に対し、今年度2.9と下がっています。人員体制については、運営事業者より「令和4年度末に職員が退職し、代替えの人員の確保が困難であったことによるもので、その後1名の確保をしたが、引き続き募集中である」との説明がありました。

評価委員からは、「経験豊富な職員と経験が浅い職員をペアにするなど、職員間の連携に配慮している」など、職員の体調を気遣うコメントなどが挙がっていました。相談業務については、評価する点として、「精神障害者の方や公的支援の必要な方が多いことから、社会福祉協議会と連携を取りつつ対応していることが評価できる」とのコメントも挙がりました。

松戸市の課題については、「育児や介護と違い、障害は多くの方が経験するわけではなく、わがことにしがたい。当事者や支援者が発言・発信できる場を多く提供することが重要」との記載があり、その内容については、まさにそのとおりであるという共感のコメントが挙がりました。

続きまして、7ページをご覧ください。3事業所目の小金基幹相談支援センターにつきましては、レーダーチャートの点数は、運営体制3.3、人員体制3.8、相談業務等3.6、虐待対応3.4、その他業務3.4、課題と改善策3.0でした。小金基幹相談支援センターについては、差別対応について事例がなく、評価対象外となり、点数をつけることはできませんでした。前年度との比較ですが、前年度の点数が全体的に高評価だったため、運営体制、人員体制、虐待対応、その他の業務、課題と改善策が前年度から数値が下がる結果となっています。相談業務等は、前年度と同様の結果となっています。

人員体制の項目について評価する点として、「利用者1人に対して、担当者2人の体制を取っている」ことや、「職員の人材育成について、常にOJTの体制が取られている」というコメントが挙がりました。一方、改善を求める点として、「担当者が不在の際のLINEでの伝達は、個人情報保護の安全性に問題はないか」や、職員の支援に関する悩み等に対し必要に応じて助言や面談を行っているとの記載があり、「必要に応じての面談では、なかなか面談は利用されない。定期的に面談を行うべきである」といったコメントが挙がりました。相談業務の項目で、関係機関とのネットワーク構築について、「関係機関との連携による困難事例の解決や、会議の実施回数からも、十分な連携関係が構築できている」と評価するコメントがありました。

最後に、8ページをご覧ください。4事業所目の常盤平基幹相談支援センターにつきましては、レーダーチャートのほうの点数が、運営体制3.7、人員体制3.7、相談業務等3.6、虐待対応3.0、差別対応3.0、その他の業務3.6、課題と改善策3.1点でした。前年度との比較ですが、虐待対応と差別対応に若干の低減はあるものの、おおむね前年度と同様の結果となりました。

人員体制について評価する点として、「経験年数の長い職員が多く、多様な資格を有していることから、多角的な視点での対応ができています」や、「職員の困りごとの共有や、負担軽減に配慮している」とのコメントがありました。一方で時間外勤務については、「極力減らすことが重要である」と、改善を求めるコメントがありました。

相談業務等について評価できる点として、「社会保険労務士と連携し、障害年金申請相談及び申請手続きを行っている」というコメントがありました。改善を求める点として、「他機関の人材育成について、少人数での情報共有の機会があるとよい」とのコメントもありました。また、地域の特性上、高齢者や引きこもりの方からの相談が多いとの記載があり、「相談内容により、求められる知識や技術が異なると思われる。適切な支援方法の模索を継続してほしい」とのコメントもありました。

4事業所すべてに共通して、「職員数に対して案件数が多い。委託費を増額して、職員数を増員するべき」というコメントがありました。総評といたしましては、各委託相談支援事業所は、相談件数の増加、また相談内容も非常に多岐に渡っており、大変なお仕事だなというのが、毎年見ている資料のほうから読み取れるところとなっています。どの事業所の方も、非常に丁寧に対応してくださっている様子が伝わってきて、その点は高く評価させていただきたいと思っています。

委託相談支援事業所が3つになり3年が経過して、それぞれの事業所の特性も見えてきたように感じています。また、委託相談支援事業所のうち基幹相談支援センターについては、少ない人員の中でのやりくりは非常に大変だろうと思いますが、地域の相談支援事業所へのスキルアップ研修などへのさらなる強化も期待したいところだと感じました。また、障害福祉課との連携を強めて、基幹相談支援事業所の存在が必要な方へ周知されるための工夫は、さらにお願ひしたいところだと感じています。

また、報告の中にもありましたが、相談支援事業所自体の不足は常に意見が出ていくところだと思います。松戸市として、この問題にどう対応していくのかというところも考えていただきたいと思います。相談支援員1人当たりが受け持つ件数が適正であることが、よりよい支援につながると感じています。

私からの報告は以上になりますが、ほかの評価委員の方々からのご意見や、ご感想もお伺いできればと思います。よろしくお願ひいたします。

今成会長

はい、ありがとうございます。ただいまの説明につきまして、意見交換に入りたい

と思います。先ほどと同様に、事前質問の内容から議論を進めて参りたいと思います。まずは質問表の No. 4 のご質問に関して、質問者の星野委員より、質問内容の説明をお願いいたします。

星野委員

はい、ありがとうございます。質問4になります。今、菊田委員からもご発言いただいたように、相談件数は年々増えていって、それに真摯に対応してくださっているんだろうなということがわかりました。一方で、その相談件数というのは、この評価のときには具体的に何件みたいなものは提示されているのでしょうか。経年的に、具体的に何件ぐらいをやっているのでしょうか。

今成会長

事務局でよろしいですかね。はい、お願いします。

事務局

はい。事務局より、回答させていただきます。相談件数については今回の資料には挙げてはおりませんが、おおまかな件数として、中央基幹相談支援センター及び小金基幹相談支援センターで6,000件程度です。常盤平の基幹相談支援センターについては、1万件ぐらいの相談件数と報告をいただいております。

星野委員

ありがとうございます。この6,000も1万も、多分いろんな相談が混ざっているんですね。何かを教えてほしいというレベルから、サービスに繋いでほしいとか、医療的に困っているとか、いろいろなものがあるんだろうなと思います。例えばなんですけれど、今後、別添みたいな形でそんなものも示していただけると良いと考えます。委員のコメントを見ると、毎回件数が増えているということで、どれぐらい増えているのかなと評価部会に参加しない人は思っていたと思うんですけども、そういった方にわかりやすくなるかなと思いますので。定量的な指標を設けて評価したいというわけではなくて、よりよく理解するためということで、この質問をさせていただきました。

そして、「相対的に相談件数が少ないことが低評価につながることは考えていないためです」とありますけれども、これも賛成です。多いからいいとか、少ないから悪いとかということではないです。だんだん相談のスキルが上がっていったりだとか、今の現状ではないと思いますけれども、相談支援事業所の数が増えていったりすると、基幹相談支援センターに寄せられる相談件数は少なくなってくる。それは相当先だと思えますけれども、そういうふうに考えている点は、これでよいと思います。

今成会長

はい、ありがとうございます。ただいまの星野委員からの事前質問に関する回答、そしてあと追加のご提案というんですかね、ご意見。今後、基幹センター等の実績をおそらく相談件数などのほかに一部のなものだとは思いますが、こういう自立支援協議会の場でも協議してもらえないかというようなご意見だったと思うんですけれども。こちらに関しまして、事務局のほうからご回答よろしいでしょうか。

事務局

はい。事務局より、回答させていただきます。先ほど星野委員からもお話があったとおり、相対的に相談件数が少ないことが即、低評価につながるというわけではないと考えております。定量的な指標は一部の評価項目で設けておりますが、相談件数においては定量的な指標で判断できないと考えており、定量的な指標は設けておりません。相談件数を自立支援協議会での報告資料に記載するということに関しましては、評価委員の方々とも協議を重ねて検討していきたいと考えております。以上です。

今成会長

はい、ありがとうございます。星野委員、いかがでしょうか。

星野委員

はい。あくまでも、評価部会にも審議して、ここでも審議するという気はさらさらありませんので、まあ別添みたいなのがあれば。このコメントで増えているとかあって、「ああ、やっぱりこれぐらい増えているんだったら、委託料を増やしてでも人員配置を行うべきだな」と、ほかの評価部会以外の委員も思えるかなと思います。そんな形で提出していただくというだけで、発言をしました。

今成会長

はい、ありがとうございます。続いて、事前質問 No. 5 に関しまして、質問者の星野委員より、まず質問のご説明をお願いいたします。

星野委員

こちら昨年度同様に、質問させていただいた点になります。質問の5です。例えばですけれども、小金であったり、常盤平を見ますと、だんだんこのレーダーチャートが目いっぱい4に近づくような形になっていると思います。基幹相談支援センターのご尽力のたまものだと思いますけれども、今後この評価基準をもう少し厳しくとか高目にしておかないと、ずっとこのレーダーチャートのままかなというふうに思います。そういった意味で、例えばですけれども、定量的なものがあればその数値

をちょっと強めるだとか、定量的なものでなければどのように基準をするのかというところかなとは思いますが。

例えば、適切かどうかはわからないんですけども、一次方程式が結構解けるようになったお子さんがずっと同じような問題を解いていても、あんまりスキルアップにはならないかなと思います。どこかのタイミングで、「じゃあ、二次方程式はどうかな」とか、「三次方程式はどうかな」とか。教育に例えるとちょっと上から目線みたいになって、ちょっと不適切かもしれないんですけども、だんだんレベルアップというか、あるべき形をと提案させていただくというのは必要かなと思いますので、「どの段階で、評価基準をどういうふうにいじるのか」ということに対して質問させていただきました。「今後も評価部会・評価委員の方々との協議の上、検討してまいります」とありますので、一気に変えるというわけではないと思いますし、毎年変えるというと、どこを目指しているのか基幹相談支援センターの方もわからないと思いますので、ちょっと慎重な議論が必要かなと思います。

今成会長

はい、ありがとうございます。こちらの質問に関しまして、事務局からの回答でよろしいですかね。お願いいたします。

事務局

はい。事務局より、回答させていただきます。星野委員がおっしゃったとおり、基準を毎年毎年変えてしまうと、評価を通じて目指すべきあり方が分かりづらくなると思いますが、評価基準を再設定するという事は重要なことだと考えてはおります。その頻度や間隔につきましては、記載しているとおり、評価委員の方々と協議して検討していきたいと考えております。以上です。

今成会長

はい、ありがとうございます。星野委員、いかがでしょうか。

星野委員

はい。

今成会長

はい、ありがとうございます。では続いて、事前質問のNo. 6に関しまして、質問者の星野委員より、ご説明をお願いいたします。

星野委員

質問No. 6ですけれども、7ページと8ページの基幹相談支援センターに関しては、相談支援業務等において、高得点4点に近いものをつけていただいて、自己評価も高いと思います。センターの自己評価ということと、実際に相談をする相談支援事業者はどう思っているのか、それとのマッチングというか、双方を考える必要があるかなと思いました。実際に、昨年第2回の会議においてアンケートを実施するという話がありましたので、その結果がどうだったかなというところもあって質問させていただきました。

今成会長

はい、ありがとうございます。こちらの回答につきまして、事務局のほうからよろしいですかね。お願いいたします。

事務局

はい、回答させていただきます。今年の3月末ごろに、市内の相談支援事業所30事業所に対してアンケートを送付しました。そのうち回答があったのは、21の事業所でした。さらにそのうち、「基幹相談支援センターに相談したことがある」と回答したのは11事業所となっております。その中で、自由記載のところに「基幹相談支援センターは忙しいと思うので、相談できない」、「簡単な内容でも相談してもいいのか、わからない」といった記載がありました。このことから、相談支援事業所の相談先として基幹相談支援センターがあるという周知を、今後さらに行う必要があると考えております。以上です。

今成会長

はい、ありがとうございます。星野委員、いかがでしょうか。

星野委員

そうしますと、21が回答して、「相談したことがある」が11、「相談したことがない」が10。10のところの自由記載ということなんでしょうか。それとも、その「相談したことがない」理由がこれなんでしょうか。

今成会長

事務局、いかがでしょうか。

事務局

はい。それでは事務局より、回答させていただきます。こちらの自由記載で挙げさ

せていただいた事業所のは、ともに基幹相談支援センターに「相談したことがある」と回答した事業所でした。その中の自由記載として、このような記載がございました。以上です。

今成会長

はい、ありがとうございます。星野委員、いかがですか。

星野委員

そうすると、この相談したことがない10事業所が、なぜ相談しないのかっていう理由は、ちょっと知りたいなというところがあります。つまり、「相談する必要がない。相談支援専門員として、ソーシャルワークも含めてできている」なのか、「そもそも相談すべき事例を扱っている、相談すべき利用者さんを担当しているにもかかわらず相談していない」なのか。後者のほうの場合には深刻かなと思いますので、この10事業所…そもそも9事業所が回答してないですけども、そういった意味で19事業所というところが、どんなふうに相談事例を受けとめて、困難なものは基幹相談支援センターに相談しているのかっていうところは、今後も追っかけていただく必要があるのかなと思います。

そして、今回でなくてもいいと思うんですけども、このアンケートは、この項目以外も多分調査していると思いますので、その結果も含めて第2回とかでこのアンケートを、全アンケートの結果みたいなものを報告いただけると、何らかの相談支援事業所の課題を抽出したりだとか、それに対応する策を議論できるかなと思いますので、合わせてお願いできたらと思います。以上です。

今成会長

はい、ありがとうございます。ちなみに、事務局に私のほうから確認なんですけれど。このアンケート内容としては、基幹センターに相談していない事業所に対する、その理由を問うような質問、アンケートの質問はとくにないというか、なかったんでしょうか。

事務局

事務局より、回答いたします。はい、助言を求めたことがないと回答した場合の、その理由を問うようなアンケートの方式にはなっておりませんでした。「助言を求めた際に、どういった内容でしたか」というようなアンケート内容でした。

今成会長

はい、ありがとうございます。では今後、ただいまの星野委員のご意見を活かし

いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

では、お時間もあまりなくなってきたのですが、事前質問のほうはただいま終わりました。当日質問等、ご意見等、ただいまの議題（3）に関しまして、どなたかございますでしょうか。はい、よろしくお願いいたします。

早坂委員

早坂です。さっきの相談件数の件なんですけれども、相談支援事業所の場合、一度相談を受けて継続的にかかわっている件数っていうのは、それなりに数があると思うんです。それにお1人の方が結構な数や時間を要して、件数をこなしていらっしゃるといって一方で、新規を受け入れる。これの6,000とか1万とかいう数字が、これだけだと何を意味しているのか全くわからなくて。もし、お1人の方の受け入れられるキャパがもういっぱいということになった場合には、新規を受けるといって体制がとれなくなる可能性があると思うんです。

基幹相談は一般の相談事業所とは違って、やっぱり緊急性も含めて、ここでキャッチをしてもらいたいという思いはとても強いんです。一般の相談のところでも、それはあると思うんです。そうすると、やっぱり件数とか継続件数とか、お1人の相談支援員さんが抱えている件数というのは、割と重要だと思われまして。そういうことがもう少し明確になり、どこの今の基幹センターがキャパオーバーに、本当の意味でキャパオーバーになってきているのかどうか。そういったことも、もう少し明確になって、どういう体制をつくっていくことで、よりよく相談のキャッチをしてもらえるのかっていう議論に持っていけるような、ジャッジになってくるといいのかなというふうに感じますので、ご一考願えればと思います。

今成会長

はい、ありがとうございます。ただいまの早坂委員のご意見…これは、ご意見ということでよろしいですかね。はい。貴重なご意見ありがとうございます。

でも、確かにそうですね。もう少し我々も、単に数字とかだけじゃなくて、もう少し内実がわかるような何か評価っていうのが、なされていくといいのかなと思いました。ありがとうございます。

ほかにもう一方。はい、よろしくお願いいたします。

大友委員

すいません。以前にも申し上げたと思うんですけれども、基幹相談支援事業所の横の連携っていうところで、やっぱり常盤平基幹は相談数が多いんだっていうのを、また実感したんですけれども。そして、前もお伝えしたかと思うんですけれども、常盤平基幹の電話が繋がらない確率が本当に高くてというのがあるんです。だから、その

辺の横の連携とか、例えば地区分けの方法とか、担当区域みたいなどころの見直しとか、そういうことは検討されているのか、進んでいるのか。

あるいは、前に伺ったときには「基幹ごとに圏域が決まっているから、そのラインは乗り越えられないんだ」というのをちょっと伺ったり。「しばらくは乗り越えようとするつもりはない」みたいな、そんな感じのことを伺ったんですけども。その辺が今、どういうふうなお考えでいるのかなっていうあたりを伺いたいと思います。

今成会長

はい、ありがとうございます。ただいまの大友委員のご質問に関しまして、事務局のほうから、いかがでしょうかね。基幹センターの担当区域の見直しと、あるいは横の連携と、そのあたり。前回の協議会でもご意見、ご質問があったと思いますけれど、そのあたりに関して、ちょっとご意見をお願いいたします。

事務局

はい。事務局より、回答いたします。圏域の範囲というのは、さまざまな分野で連携しています。障害分野だけでなく、高齢分野などとも連携しているので、分野を超えた連携の利便性を考慮しながら慎重に協議しなくてはならないというふうに考えており、なかなか「すぐに変えるように検討していきます」というご回答が、難しいような状況でございます。以上です。

今成会長

はい。大友委員、いかがですか。

大友委員

はい。圏域の分け方だけではなくて、やっぱり助け合い方というところで、障害特性であったり、それぞれの得意だったりとか、何て言うんですかね、ケースによってもう少し分かち合えたりとか、助け合える方法っていうのを見つけていけたら、お互いに助け合えるんじゃないかなというふうに思ったりしているので、その辺、ご検討いただければと思います。

今成会長

はい、ありがとうございます。引き続き検討していきたいと思います。ありがとうございます。あと、江波戸委員からも。はい、どうぞ。

江波戸委員

はい。すいません、勉強不足で申し訳ないんですけど、事務局の方に質問させて

いただきます。

基幹相談支援センターと沼南サポートの評価という部分におきまして、基幹相談支援センターにおきましては基本的には仕様書が公開され、広報でプロポーザルという経過を経ての評価と伺っているんですけれども、沼南サポートセンターにおける委託の根拠——おそらく重層的支援体制整備事業の中の一つだとは思いますが——こちらにおきましては、例えば私は仕様書という部分を拝見したことがなくて、ましてや直接契約という形なのかなとは思いますが、ごめんなさい、この評価項目においては、例えば地域移行あたりがないということで、仕様書の内容も異なるかと思うんですが、もし大きく乖離があるならば、別で強化すべきかなとも思ったので、ちょっとそのあたりを教えていただければと思います。以上です。

今成会長

はい、ありがとうございます。事務局のほうから、いかがでしょうか。

事務局

はい。事務局より、回答させていただきます。仕様書に記載している業務内容は、基幹相談支援センターとサポートセンター沼南では異なっている関係で、評価対象項目も、基幹相談支援センターと比較するとサポートセンター沼南のほうが少ないとなっております。「評価の場を分ける」ということも今後検討していきたいとは思いますが、基本的には同じ相談支援業務を評価するので、引き続き同じ場で協議していきたいと考えております。以上です。

今成会長

はい。江波戸委員、いかがでしょうか。

江波戸委員

はい、ありがとうございます。例えば障害者計画では、基幹相談支援センターの周知を増やしていこうという目標があった中で、やはり障害サポートセンターの部分は、あまり目に触れることがなかったので質問させていただきました。ありがとうございました。

今成会長

はい、ありがとうございます。ちょっと時間も押してまいりましたので、次に進んでいきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

6 その他

今成会長

本日の議題のほうは以上となりますけれども、最後にその他に移りたいと思います。まず、その他に関しまして、事務局のほうから何かございますか。

事務局

はい。事務局でございます。1点、報告事項がございます。

次回の自立支援協議会に関する内容でございまして、昨年度も第2回の自立支援協議会において行っているんですけども、県の障害福祉事業課から、千葉県相談支援従事者現任研修の協力依頼がございました。自立支援協議会に関することといたしましては、「地域の自立支援協議会の見学」というものが研修内容として組み込まれておりまして、昨年度は15名の方が、ZOOM形式で、ご参加いただいたというところがございます。今年度も同様の依頼がございましたので、次回協議会におきましても相談支援員の出席が見込まれますので、報告とさせていただきます。以上です。

今成会長

はい、ありがとうございます。その他に関しまして、委員の皆様からご意見等ございますでしょうか。はい。大友委員、お願いいたします。

大友委員

申し訳ありません。何度もなんですけれど、ちょっと最後に。ここ数日で入って来た、ちょっととても気になる地域の議題というか、課題みたいなところで。学校の先生はご存知だと思うんですけども、学校によって使用済みのおむつを、持って帰る学校と、学校で捨ててくれる学校というところがあります。先生たちも痛感していらっしやう。

保育園に関しては2019年に、もう松戸市では全部保育所で捨てるようになり、廃棄するための資金というか補助金もちゃんと出るようになってきているというところで、保育園ではなっているんですけども。学校に関しては、その学校ごとにまだ任されているということで、まだ持ち帰っている。特別支援学校も、持ち帰っている学校と、学校で捨てることになったというところがあります。支援級のお子さん、情緒級のお子さんでも、知的には高くても、やっぱりおむつが必要な方がいらっしやう、その方が私のケースでも、持って帰ってきていらっしやうという方もいらっしやうたりします。

これは本当に簡単な問題ではなくて、多分、就学前の子どもたちは、当たり前みんなおむつをしているから、親御さんたちがみんなで手を挙げて対応できたと思うんですけども、ちょっと大きくなってみんながおむつを使わなくなってきたときに、

親御さんたちが手を組んで「おむつを持って帰らないように、補助金を出してください」って運動をおこすのは、とても難しいこと。しかもおむつをしているお子さんって、多分とても重度の方で、親御さんはとても疲弊して、それだけでも大変なのに、その「おむつを持って帰らないできてくれたらいいな」なんて運動を、とても起こせない状況にあると思います。

皆さん、ちゃんと私たちが想像しなくちゃいけないのかなと思うのは、おむつと一緒に、水筒の横に使ったおむつが入っていて、その臭いがして、それを放課後デイまでずっと持って帰って。その子供たちは、多分それを訴えられない子供たちが多くてという現状を、ちょっとこの数日突きつけられていて。このおむつの問題は、きょうは時間がないのであれですけれども、今後何らかの形で松戸市として動いていく可能性はあるのかということをご回答いただけたらなと思っております。はい、以上です。

今成会長

はい。大友委員、ありがとうございます。

ただいまの大友委員のご意見ですかね、問題提起でしょうかね。ほかの委員の方から何かご意見等、ただ今の大友委員のご意見に関して何かございますか。

加瀬委員

貴重なご意見、ありがとうございます。学校としてもそのあたりの問題は、非常に重く受けとめております。実際の処分費用については、本校は県立ですので、また市とは費用の部分は違うかなというふうに思うんですが、なかなか本校も児童・生徒数が多いですので、そのあたりをどのように対応するかってところは、とても悩ましく思っているところですが。今あったように、お子さんが持って帰っているという事実——わが校も、持って帰っているんですが——については重く受けとめて、今、学校でもどういうふうにしていくかと考えているところですので、またこの場で何か情報をいただいたり、お知らせできることがあればと思います。ありがとうございます。

今成会長

はい。加瀬委員、ありがとうございます。えーと、これは問題提起というか検討課題ということで、自立支援協議会としても、まず受けとめていくという形よろしいんでしょうか。事務局の方、何かご回答というか、コメントよろしいでしょうかね。

事務局

特別支援学校は確かに、おっしゃるとおり県立で、市立の学校のおむつについて、教育委員会と検討してまいりたいと考えています。今どうこうとは言えないんですけども、少し検討をしていきたいと思っております。以上です。

今成会長

はい。ありがとうございます。

早坂委員

すいません、今の件は。今のお子さんたち、支援学校もそうなんですけれども、ほとんどのおさんは、学校が終わってからまっすぐお家に帰っているおさんは少なく、放課後等デイサービスだとか、もしくは支援級に行っているお子さんで「学童」をご利用していらっしゃるお子さんもいて、かなりの時間それを持ち歩いて移動しているという実態なんです。本当に、機能的に問題があって、知的の問題が重度だからおむつというだけではない方も結構いらっしゃるの、このあたりの衛生面ということから言っても、やっぱり管理が非常に難しいかなとは思いますが。ぜひ、検討課題に挙げていただけるといいのかなというふうに思っております。

今成会長

はい、ありがとうございます。

では、ほかに「その他」に関しまして、いかがでしょうか。よろしいでしょうかね。

はい、ご意見がないようであれば、本日の議事のほうは以上となります。ちょっと時間超過をしてしまいましたけれども、皆様にご協力いただきましたことを感謝申し上げます。事務局のほうに司会の進行をお戻しいたします。ありがとうございます。

事務局

委員の皆様、ありがとうございました。最後に、連絡事項を3点伝えさせていただきます。

まず1点目として、次回の協議会の日程でございます。次回は、令和7年1月下旬の開催を予定しております。日程が確定次第ご案内させていただきますので、ご出席のご配慮のほどをよろしくお願いいたします。

2点目として、本日の駐車場のご利用についてでございます。市役所の駐車場をご利用の方は、駐車券の処理をいたしますので、お帰りの際に事務局までお申しつけください。

3点目として、今成会長より、千葉県中核地域生活支援センターのイベント案内をいただいております。出口にて本所の職員が、案内文書を配布させていただきますので、ご興味のある方は、ぜひお受け取りいただけますようお願いいたします。

以上をもちまして、令和6年度第1回松戸市地域自立支援協議会を閉会いたします。本日はお忙しい中、長時間にわたりご出席いただき、ありがとうございました。